

令和8年3月1日

関係者様

世田谷区立下北沢小学校

校長 大字 弘一郎

令和7年度 前年度改善方策の実施結果

前年度の学校関係者評価において示された課題やご意見を踏まえ、重点目標に基づく具体的な改善方策を立案し、全教職員で共通理解を図りながら計画的に取り組んでまいりました。その結果と今後の方向性について報告いたします。

1 自分づくりの取組

特別活動や縦割り活動において、児童一人一人が役割をもち、互いのよさを認め合う場面を意図的に設定しました。特に高学年においては、下級生を支える立場としての自覚を育む活動を充実させたことが自己肯定感の向上につながったと考えられます。その結果、高学年では7割を超える児童が「自分のよさを実感している」と回答しました。これは、単発的な取組ではなく、年間を通じて継続的に自己有用感を育む指導を行ってきた成果であると分析しています。

一方で、自己評価が十分に高まっていない児童も見られるため、今後は振り返り活動の質を高め、言語化を通して自分の成長を実感できる支援を充実させてまいります。

2 学習の充実

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、課題提示の工夫や話し合い活動の充実を図りました。自分の考えをもつ時間と、他者の考えと比較・検討する時間を明確に位置付けたことが、思考の深化につながったと考えています。

その結果、高学年では約9割の児童が「自分の考えを伝えられる」と回答しました。発表形態の工夫や少人数での話し合い活動が、安心して表現できる学習環境づくりに寄与したものと捉えています。

今後は、単に「伝える」ことにとどまらず、根拠を明確にしながら論理的に説明する力や、相手の考えを受けて自分の考えを深める力の育成を重点課題として取り組んでまいります。

3 身体づくりの推進

体育科の授業改善に加え、休み時間の外遊びの奨励や体力向上に向けた取組を計画的に

実施しました。児童が達成感を味わえるよう、目標設定や記録の可視化を行ったことが意欲の向上につながっています。

アンケート結果からは、運動に対する前向きな意識が高まっている傾向が見られました。特に、友達と協力して活動する場面を取り入れたことが、運動への抵抗感の軽減に効果をもたらしたと分析しています。

目標である 8 割達成に向けて、今後は体力差に応じた指導の工夫や、家庭との連携による生活習慣の改善にも視野を広げ、継続的に取り組んでまいります。